

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2361 号

Combination Therapy of Glucagon-like Peptide-1 Receptor Agonists and Insulin for Patients who developed Diabetes after Partial Pancreatectomy

(膵部分切除術後に発症した糖尿病患者に対する GLP-1 受容体作動薬とインスリンの併用療法の検討)

北澤 公 (きたざわ とおる)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、膵部分切除術後の糖尿病患者に対する GLP-1 受容体作動薬と基礎インスリンの併用療法の有効性と安全性について検討したものである。

膵部分切除術を受けた患者は、膵実質量の減少に伴い内因性インスリン分泌が低下するため、糖尿病を高頻度に発症することが知られている。その程度は切除領域や切除量にもよるが、強化インスリン療法を導入するケースも多く、術後の生活の質 (Quality of Life) に大きな影響を及ぼす。

本研究では、膵部分切除術後の糖尿病患者に GLP-1 受容体作動薬リキシセナチドを追加投与することで、基礎インスリン グラルギンの単独投与ではコントロールが不十分であった食後 1 時間血糖値、食後 2 時間血糖値および HbA1c の低下を認めた。今回の投与対象は、ベースライン時の空腹時 CPR 値が低値であったことからわかる通りインスリン分泌が低下していたが、低血糖を起こすことなく血糖コントロールの改善を認めた。

以上の結果から、本論文は基礎インスリンと GLP-1 受容体作動薬の併用療法が、短期的には膵部分切除術後の糖尿病に対して、低血糖のリスクが少なく良質な血糖コントロールを達成するための有用な治療選択肢になることを明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。